「検針・集金データ」OCRからホストコンピュータへ直接伝送

62/6から検針データの直接伝送を試行中

現在、検針票・領収証原符は、営業所に設置されているOCR（光学文字読取装置）でデータチェック後、トラック輸送で本店に送り、ホストコンピュータに入力している。検針・集金データの入力の迅速化を図るため、データ伝送システムを開発し、OCRとホストコンピュータを通信回線で接続した。

これにより、営業所から直接、検針・集金データがホストコンピュータに入力できるようになった。（第1図）

このシステムは、62年6月から検針票について試行中であり、63年4月から運用開始の予定である。

1 データ伝送システム（第2図）

(1) 検針票・領収証原符をOCRで読み取り、フロッピーディスクにデータを蓄積する。

(2) 蓄積したデータは、既設オンラインシステムを利用して、ホストコンピュータへ伝送する。

(3) ホストコンピュータでは検針・集金データを受信し、データチェック後、データベースを更新する。

(4) データベース更新後、結果データをOCRへ送信し、プリントアウトする。

2 既設オンラインシステムの利用、即時出力

(1) 既設オンラインシステムを変更することなくOCR読取データをホストコンピュータへ伝送できる。

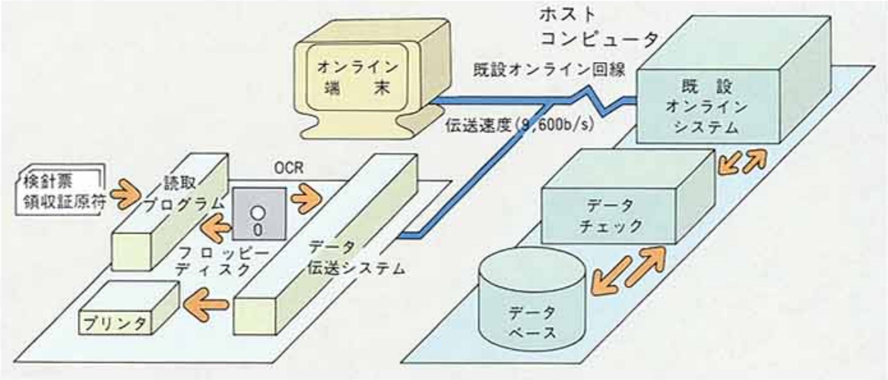
(2) OCR読取データの伝送は、既設オンラインと通信回線を共用して行う。

(3) OCR読取データのチェック結果は、即時にOCRのプリンタに出力される。

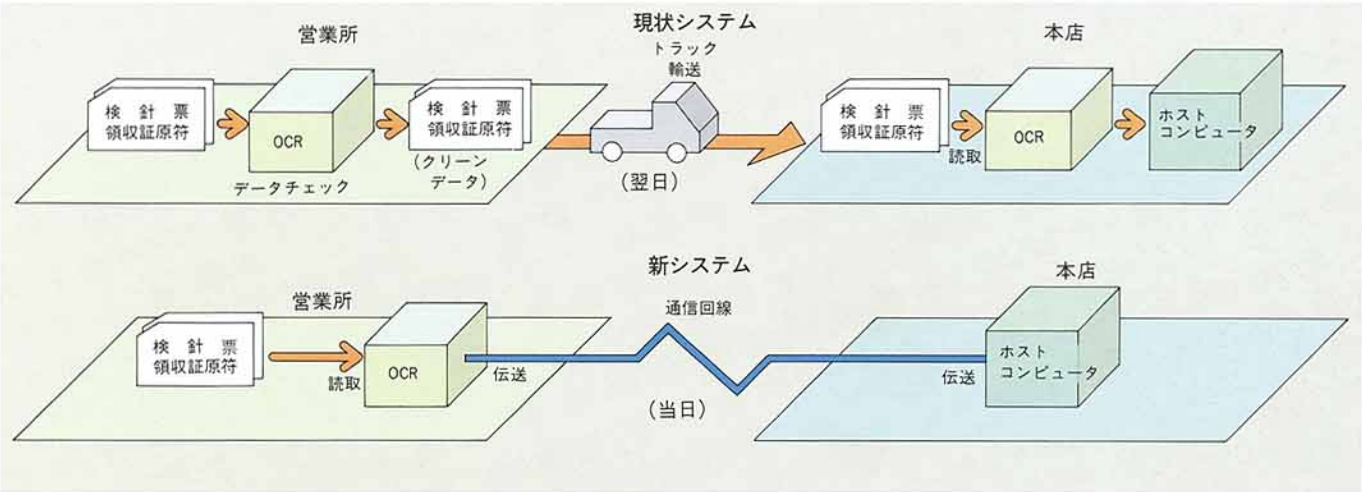
3 常に最新のデータに更新、処理精度の向上

(1) OCR読取データは、最新の状態でチェックし、即時にデータベースを更新するので、処理精度の向上が図れる。

(2) 輸送手段の改善（トラック輸送からデータ伝送）により、台風等による交通障害でホストコンピュータへのデータ入力時間が遅れることがないため、データ入力の信頼性が高まる。（情報システム部 設備計画課）



第2図　データ伝送システム



第1図　営業所OCRのオンライン化